

くすりのしおり

外用剤

2021年03月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：プラノプロフェン点眼液 0.1%「わかもと」

主成分：プラノプロフェン(Pranoprofen)
剤形：無色澄明の点眼剤、(キャップ) 薄藤色
シート記載：



この薬の作用と効果について

炎症の原因物質であるプロスタグランジンの生成抑制作用などにより炎症を抑えます。通常、眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、目の手術後などの炎症の抑制に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。コンタクトレンズを使用している。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、1回1～2滴を1日4回点眼します。症状により適宜増減されます。必ず指示された点眼方法に従ってください。
- ・容器の先端が直接目に触れないようにしてください。
- ・点眼した時に液がまぶたなどについた場合は、すぐにふき取ってください。
- ・他の目薬と併用するときは、5分以上の間隔をあけて点眼してください。
- ・点眼し忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く点眼してください。ただし、次に点眼する時間が近い場合は点眼しないで、次回より指示通りに点眼してください。2回分を一度に点眼してはいけません。
- ・誤って多く使用した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で点眼するのを止めないでください。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、目の刺激感、結膜充血、目のかゆみ、眼瞼発赤・腫脹（目のまわりの発赤・はれ）、眼瞼炎（目のまわりの炎症）、眼脂（目やに）、流涙、びまん性表層角膜炎（目のゴロゴロ感・痛み・まぶしい・涙が出る）、目の異物感、結膜浮腫、発疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎（薬がついた部位のかぶれ）、気管狭窄（息苦しさ）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

該当する記載事項はありません。

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、添付の投薬袋に入れて、光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・開封後1ヵ月が経過し、薬が残った場合は、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。